

カナリヤ通信



第13号

「カナリヤ通信」では、さまざまな考え方をもちた女性が、社会の中で遅く、それについて女性らしく声を出して、人生を楽しみながら働く姿を表現していきます。

～働き方について考え、気づく～

特集号第1弾

第2弾は11月30日

14号は12月14日です。テーマは「育児と保育園」です。

歴然としたトイレ格差が発覚！



■専門家の意見
 「生活に不可欠なトイレは 快適な居室」
 「リフレッシュできる貴重な空間」

*「トイレ格差」の実情が浮き彫りになりました。アンケートでは「男女兼用は嫌」「寒くて暗いのでなるべく行きたくない」「就職する際の判断材料」などマイナスイメージの回答が多く寄せられました。一方で、オフィスではトイレの改修に乗り出すところもあります。また現場も、女性専用のトイレや休憩室を設置するなど、女性が動きやすい環境へ少しずつ変化しているようです。

環境・設備(トイレ・更衣室)

「満足度
 オフィス53%、現場39%」

「現場は汚い、暗いなど
 『トイレの5K』が課題」

ワークとライフを明確に区切るのではなく、臨機応変さが大切！

「仕事もお酒と同じ
 中庸が大切」

「ワークとライフの
 境界は人それぞれ」

ワーク・ライフ・バランス



*若い世代を中心に夫婦がともに働くのが普通になってきました。当然、ワーク・ライフ・バランスといっても十人十色。考え方や価値観、生活など人それぞれで、介護や育児などのライフイベントなどあることから、多様性を持たせた働き方ができる環境ができるといいかもしれません。

「毎日を乗り切る生活でも
 資格の勉強も」

働く母、が当たり前

「仕事は質、
 子育ては密度」

「子育ても仕事も
 正解はないから楽観的に」

育児と家庭



主夫代表からは……
 「それぞれの家庭の生活スタイルにあった最適解を見つけて」



*働きながら子育てをする人が多くなりました。その背景には、育児制度が整備されたのはもちろんのこと、男性の育児参加や職場の理解が進んでいることもあるようです。夫の方が家事をメインにしているという家庭もあり、主婦ならぬ主夫の存在も見逃せません。取材をしていると「育児を通して子どもから学ぶことが多い」と聞きまますが、子どもの行動や言葉から気がかされることが多いのかもしれない。子育てを経験したことで「部下に対する接し方が良くなった」など、仕事に好影響をもたらした例もありました。

◆座談会ではこんな意見も…

「個性・能力での評価や柔軟な制度が必要」
 「育児などで限られた時間内に仕事をこなす女性のやり方を全体に行き渡らせ効率を上げる」
 「男女ともに補い合うことで動きやすい環境が生まれるはず」といった見解が示されました。また、建設業は上流から下流まで一つの現場

に多数の業種が集まって働くため、「ある程度の規律は必要だが、さらに柔軟性と工夫が必要」
 「人間関係と個人の特性を生かすことで全体的に動きやすい環境を作れるのではないか」といった意見も出されました。

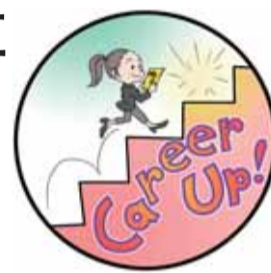


女性(男性)にとって働きやすい職場とは？

日刊建設通信新聞社では、建設産業界における女性(男性)の働き方について考え、気づく紙面「カナリヤ通信」を昨年11月に創刊してから1年が経ちました。この1年、主に女性の働く環境や取り組み、それに伴う課題や問題について専門家の意見も交えながら採り上げてきました。また、管理職や育児期間中、入社して間もない女性たちの不安や悩み、意識込みなど生の声をより多く掲載してきました。カナリヤ通信編集部では、1年を機に女性の働き方、ひいては男性の働き方を2回に分けて特集し、さまざまな角度から深く掘り下げます。初弾は、気づいた課題とその解決の糸口を一挙掲載します。第2弾は11月30日付で発行します。

実力は能力と経験値のかけ算

■働く側の意見
 「性別ではなく職種で役割を」
 「きちんとした評価制度がほしい」
 「自分の立ち位置を知りたい」
 ■トップからの意見
 「男女対等を意識しなくてすむ社会にしたい」
 「世の中、男女の割合はほぼ半々」
 「女性も男性も能力に差なし」
 「希望に合わせ多様な働き方を」



*企業トップが熱い眼差しを送る女性社員。いまや活躍の幅が大きく広がっています。しかし、妊娠・出産というライフイベントによってキャリアアップの道を一時中断しなくてはいけなくなり、躊躇する例も散見されます。女性は「まじめで優秀、そして意欲的」という評価もあり、「復職した時に一生懸命頑張ればよい」という意見もありました。限られた時間をいかに効率よく使うか、これが一つのカギになるようです。ロールモデルがまだ少ない中、キャリアアップを目指す女性の活躍に期待が集まります。

キャリアアップ

事業者も母子の健康を守る！

■弁護士からの助言
 本人だけではなく、事業者も制度を知り違法な措置やハラスメントとならないよう注意する必要があります。



*法律や社内制度が充実し、仕事を辞めるという選択をする女性が増えなくなりました。結婚し出産する女性社員が増える中、企業も戸惑うことがあるようです。妊娠期間は長い会社人生の中で一瞬です。母体とお腹の子どもの健康を最優先に、事業主や同僚は温かく見守ることが必要です。

■医師からの助言
 ○妊娠の注意点5か条「適切な年齢で出産」「健診は必ず受ける」「アルコールや喫煙は控える」「昼休みなど30分は横になる」「妊婦に無理をさせない」
 ○妊婦の異常・危険なサインは「むくみ」「頭痛」「低・高血圧」「腹痛」「出血」



妊娠・出産

男女平等度 世界ランキング 144ヶ国中111位！

スイスのシンクタンク、世界経済フォーラムの2016年の男女平等度ランキングによると、日本は144ヶ国中111位となりました。前年の101位から大きく後退し、先進7ヶ国(G7)の中でも最低ランクとなりました。

位、お隣の中国は99位、韓国は116位となりました。調査は、ジェンダーギャップ指数の経済、政治、教育、健康の4分野で女性参加率や男女格差を分析しています。

日本は、安倍政権の経済政策で女性の活躍を推進していますが、「リケジョ」(理系女子)が依然少ないことなどが影響しています。日本は女性の大学進学率上昇などが評価されたものの、技術者や専門職の数で男女差が拡大した点や、男女の所得格差(女性の水準の低さ)が結果に出た格好となりました。首位は8年連続でアイスランド、最下位はイエメン。アジア首位はフィリピンの7



不公平



カナリヤ通信特集号第2弾は11月30日付です。リアルな声を一挙掲載。お楽しみに！

お問い合わせ
 株式会社日刊建設通信新聞社 カナリヤ通信編集部
 TEL03-3259-8711 FAX03-3259-8730
 ●ご意見・ご感想は
 canaria@kensetsunews.comまでお寄せください。
 「カナリヤ通信」は、日刊建設通信新聞社の登録商標です。



webで公開中